

待ちに待った給食
ごはん 麴のみそ汁
じゃがいものそぼろ煮
ごまかつ納豆

ほぼ日刊 夢の華 Cカァラッaト

第791号

神町中学校 夢色通信社
令和3年1月13日



山形新聞 少年少女の声（1月5日より）

限られた時間を大切に

3年 平山秀仁

私は生徒会副会長を辞任し、第28代生徒会にバトンを託しました。新型コロナウイルスが流行したため、とても短い1年でした。だからこそ、「時間の大切さ」を身に染みて痛感しました。

新型コロナウイルスの流行によって学校が臨時休校となり、授業日数や部活動の時間、そして生徒会の時間の一部を失いました。この状態で自分がやりたいと思っていた生徒会活動ができるのかと不安を覚えました。でもSNSで見つけた1つの言葉で私は動けました。それは「時間は自分のために待ってはくれない。一緒に悲しんではくれない。だからこそ今やるべきことを精いっぱいがんばるしかない」という言葉です。この言葉で私は生徒1人1人が自分からあいさつをしようと思えるきっかけ作りをするため、部活動、クラス単位のあいさつ運動やあいさつカードによる活動を行いました。他にも担当の先生や執行部の役員と相談し、必要だと思うことをそのたびに紙に書き出し、時間を大切にしながら活動を進めてきました。その結果、自分からあいさつする人が増えました。できないと思っていた活動をすべてやり切ることができ、思っていた以上の成果を出すことができました。

新生徒会の後輩たちにも「時間を大切に」してほしいと思います。このコロナ禍がいつまで続くか分かりません。時間がないからこそ、やりたいと思ったらすぐに実行してみてください。やらないで後悔するより、やって後悔した方が絶対良いと私は思います。



多くを学んだ合唱活動

3年伊藤芽衣

神町中学校の合唱がよりよいものになるために全力を尽くしてきました。新型コロナウイルスの影響で全校で合唱を行うことは難しかったですが、とてもやりがいを感じました。

例年だと生徒全員が集まって行われていた合唱練習。本年度は、全校生が集まることすらできず、どのような方法がよいか迷いました。生徒会執行部や担当の先生方と話し合った結果、教室の窓をすべて開け、窓に向かいマスクを着用し、1人1人の間隔をあけて放送でCDの曲を流すという方法で練習しました。様々な課題を克服しながら、徐々に1人1人が声を出し校舎に響く全校合唱をすることができるようになりました。それでもまだ、合唱コンクール自体できるかどうか不安でした。その時、校長先生から「必ずやろう」と言われ、うれしかったです。勇気づけられました。結局、今回の合唱コンクールは、場所を「県民ホール」に移し、場所も練習期間も例年と全く違う形で行うことができました。全校生の協力のおかげで素晴らしい合唱を響かせることができました。大会などと重なり大変だった1、2年生の皆さん、県民ホールでの合唱コンクールを準備してくださった先生方には感謝しかありません。

合唱プロジェクトリーダーの活動を通して挑戦することの大切さを学びました。初めての連続でしたが、成功することができたのは挑戦する気持ちを忘れなかったからだと思います。次の生徒会の皆さんにも新しいことにどんどん挑戦してほしいです。応援しています。